

Once upon a time, there was a hunter named Gonbeii.

Every day, Gonbeii caught a single duck and made a living by selling it.

"Hmmm... If there is a good way to catch a lot of ducks at once, I could have it much easier. I wonder if there's some clever trick."

Gonbei decided to set a trap in the pond in which he visited daily to catch ducks.





5

Gonbei prepared plenty of durable strings, attached bait to all of them and sank them into the pond.

After a while, a lot of ducks came by and started to eat the bait.

Hidden in the shade of a bush, Gonbei began to count the ducks.

"Ninety eight, ninety nine...wow, there are exactly a hundred ducks! This is amazing!"

Gonbei suddenly let out a cry in spite of himself. Then, having been surprised by Gonbei's sudden yell, the ducks flew up all together.





むかし むかし、あるところに、  
ごんべえさん という りょうしがいました。  
ごんべえさんは まいにち『かも』を  
いちわ とっては、それを うって  
くらしていました。

「う～ん、いちどに たくさん  
かもが とれる ほうほうでも あれば、  
もっと らくできるんだがな。  
なにか いいては ないか・・・」

ごんべえさんは、いつも かもを とる いけに、  
わなを しかけることに しました。





ごんべえさんは じょうぶな ひもを  
たくさん よういして、それ ぜんぶに  
えさを つけ、いけに しずめました。

やがて、かもが たくさん やってきて、  
えさを たべはじめました。

ごんべえさんは くさの かげに かくれて、  
かもの かずを かぞえました。

「きゅうじゅう はち、きゅうじゅう きゅう・・・  
おお、ちょうど ひゃくわだ！  
こいつは すごい！」

ごんべえさんは、おもわず  
こえをあげて しまいました。  
すると、おどろいた かもたちが、  
いっせいに とびたちました。

